

品のい、両親につれられた三人の子供（上が女の子九才位、中が男の子七才位一番下が男の子五才位）が横浜から乗って来た。京都で下車するまで、タツプリー七時間。その動作の観察で、わたし達は少しも退屈しなかったが、その子供達のおとなしいのには感心させられた。日本の子供だったら泣きもしよう。喧嘩も始めよう。でなければ、つゞけざまに、むしゃくやるだろう。

その子ども等は、車中に菓子を売りにくるのを、みむきもしないで、ひる頃に、サンドイッチの軽い昼食を与えられただけで、坐席も二人掛けの指定席に、父にあたえられた通り腰をかけて居る。その組合せず父が時々取りかえて呉れる通りにしている。一番幼い子が、母を独占し通しかと思つたら、そうでもない。それどころか、或る時間は父と母が同席して、父が母の肩に手をかけて、むつまじく話しあっている——四の眼は勿論やさしく

### 汽車の中の子ども

倉橋生

子ども達にそ、がれている。外国の汽車の旅で、こういう光景をみたことのない妻には、それが、よほど變つてみえもし、うらやましい(?)ようでもあつた。子ども等は勿論みられていることでもなんとも思っていない。子どもは、子ども同志で、遊んでいる。やがて、お母さんが、絵本をだしてやった。家内は、キングダーブックをもつてきて、この子らに与えてやればよかったと思つてゐるらしい。何か私に話してみてもと、いったりしたが私のおかしな発音が、子どもらの正しい発音をゆがめてはいけないと思つてやめた。私は時折手まねではなすだけにした。家内はみなさんおとなです。ねえとほめてやりたそらだったがそんなことは、尙更してわならない。やがて米原あたりで、お母さんが小さい櫛をポケットから出して、女の子の髪をときつけてやった。と思つたら汽車は京都についた。私達が目札で彼等を送つたこと

は勿論だが、子ども等も親と共に、こやかな笑顔を返した。

### 幼児の教育 第五三卷 第二号

定価金五十円

昭和二十九年一月二十五日印刷

昭和二十九年二月一日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三  
発行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町二ノ五

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

〇本誌御購読についての御注文は発売所  
フレーベル館にお願いします。